

暮らしの通信

発行 有限会社 西都水道
宮崎県西都市大字妻1694-1
TEL (0983) 43-0744
FAX (0983) 43-0796
http://www.s-suido.co.jp
E-mail.s-suido@siren.ocn.ne.jp

色使いを工夫して



夏のお部屋に模様替え

インテリアの色を使うのは意外と勇気がいるもの。つい、白やベージュなど無難な色で統一しがちですが、ポイントに色を使うだけでお部屋の印象はがらりと変わります。

カーテン、クッションカバー、食器などの色使いを夏用の組み合わせにするための、簡単なテクニックをご紹介します。

テクニク1

グラデーションで品よく

色はたくさんあると乱雑になつてしまいますが、反対に少なすぎても単調でおもしろみに欠けます。そこでおすすめなのが色の濃淡による組み合わせです。ひとつ基本となる色を決めて、その濃淡で変化をつけるグラデーションなら単調にならず、しかも品よくまとまります。

たとえば夏に向けて涼しげなインテリアにしたいときは、青の濃淡をとりいれるとさわやかな印象になります。濃い色は少なく、淡い色は広い面積に用いるのが上手にまとめるポイントです。

布を使うときは、無地に同系色の花柄やストライプなど、柄物をほどよく組み合わせると変化がついてよりおしゃれです。青だけでなく緑のグラデーションや茶色のグラデーションなども品よくまとまる夏にふさわしい組み合わせです。

テクニク2

反対色で元気のなる部屋に

インパクトのある個性的なインテリアを目指すなら、反対色をとりいれましょう。反対色とは赤と緑、オレンジと青、紫と黄色などのことで、2つの色を組み合わせることでお互いの色の鮮やかさを強調しあう、見た目にも元気なのである配色です。ただし、使いすぎると印象が強すぎて落

梅雨がすぎたら、洋服だけでなく、お部屋も夏向きに着替えてみませんか？

ち着かないインテリアになつてしまうので要注意。小花模様や細いストライプ、小さな水玉など、細かい柄ものは強い配色でもつるさくなく、おすすです。

最初は同系色で、慣れてきたら反対色にもチャレンジ。ちよとしたテクニクでインテリアは見違えるほど素敵になります。



暮らしメモ

インテリアの色のアレンジは、どの色をどのくらいの量で使うかが大切です。センスよくまとめる色使いのコツとは？

アクセントカラーは全体の3割以内に収める

床、壁、天井など広い部分に使われる色をベースカラーといい、ベースカラーにめりはりをつけるのがアクセントカラー。ベースカラーが淡い色ならどんな色ともマッチしますが、気をつけたいのがアクセントカラーの量です。

一般的にはベースカラー7割、アクセントカラー3割ほどの配分がバランスがよく、落ち着いたインテリアになるとされています。

床、壁、天井から家具まで、トータルで考える

広々とした空間作りをしたいなら、床を濃い色にして、壁、天井には淡い色を選びましょう。これは安定感があり落ち着いた定番の組み合わせですが、実は目の錯覚を利用して天井を高く見せる効果があるのです。

家具やカーテンなどをアクセントカラーとして用いるときは、床に近いほうを濃い色、壁、天井に近づくほど淡い色にするといでしょう。

